

# サタデー コラム

## 大企業と競う 先発中小企業

文化元年の創業以来、10代にわたり事業を継承してきた当社は、2000年企業の特長性についてよく聞かれます。その一つを挙げると、先進性です。

明治からの中核事業である養蜂・蜂産品事業の歴史を振り返ると、常に業界に先駆けて新しい取り組みをしてきました。そして小職が経営主体となつてからは、1989(平成元)年にスタートしたソフトパウチ(チアアップ)事業があります。

元々は蜂蜜の容器を探している際、ソフトパウチ開発の情報を得ました。蜂蜜が健康、美容に良いのは周知のことですが、粘度が高くベタつき、使いづらい面があります。パウチ容器は、絞って使え、小分け使用もできるので、この点に注目し、原型を共同で改良し、蜂蜜用として

新発売しました。その後別の用途を考え、得意先の大手乳業メーカーにトップセールスをかけ、プレーンヨーグルト用のフルーツソース容器として提案しました。

従来品のパウチに、ストローとキャップが付き、使いやすく、発売後順調に伸び、30年以上にわたりロングセラー商品となっています。さらに大手菓子メーカーのゼリー飲料開発に関わり、94年に当社で受託製造をスタート。当初はアスリート向け

の特殊なルートで販売されましたが、テレビ広告で一気に大ブレイクし、今ではコンビニなど

で圧倒的シェアを持つナンバーワン商品となっています。

当社は現在ソフトパウチ製品を県内3工場で生産しています。89年からソフトパウチ業界で常に先発してきましたが、昨今は後発のメリットという現実に直面しています。

以前、著名な経済評論家、田中毅氏が日本の大企業の特徴は後発のメリットだと述べられた論説を目にしました。最近、ソフトパウチ業界にもわが国を代表する印刷メーカーが参入してきました。印刷から始まり、川上から川下まで一貫生産するため、コスト競争力に優位性が

あり、市場を席巻してきます。後発のメリットを享受する大企業に対し、礎を築いた地方の中小企業として指をくわえているわけにはまいりません。競争するにはコストダウンが必須で、次の一手は省力化です。幸い岐阜は自動車・航空機産業などロボット先進県です。中小企業の宝である知恵をフル回転し、高品質・低コストを実現します。

わが国の経済力の衰退は、戦後教育にあるといわれます。知識一辺倒で画一的、横並びの教育からは創造力は生まれません。個性と知恵を発揮し創造力を育む。自由で柔軟なスタンスからこそ先進的な事業が育つと思います。わが国経済の復活のため、全国各地の先進的中小企業が起爆剤の役割を果たすことを期待します。



秋田屋本店会長 中村源次郎氏

なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。県養蜂協議会委員。県収用委員会委員。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会会長。市信用保証協会理事。市公共ホール管理財団副理事長。県フエニシング協会会長。